

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」

（初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン掲載））

【第24回】

『「あそぶ」「まなぶ」「つくる」』ドリームパーク

佐賀県神崎市立西郷小学校長 草場 浩

ドリームパークとは、神崎市の放課後子ども教室の通称です。神崎市には吉野ヶ里歴史公園があり、佐賀市の東隣に位置しています。西郷小学校は、神崎市のほぼ中心にあり、児童数214名です。昨年度創立百周年を迎えたばかりです。本校では、隔週水曜日の15時30分になると、子どもたちがドリームパークの受付に駆け込みます。数日前から、ドリームパークの活動を楽しみにしているのです。平成20年度は53名が参加し、これは総児童数のほぼ1/4にあたります。

ドリームパークのプログラムは、『「あそぶ」「まなぶ」「つくる」』という3つのテーマでつくられています。料理、工作、ニュースポーツ、絵本の読み聞かせ、剣道、むかしの遊び、生け花、陶芸など、子どもたちが飛びつきそうなものばかりです。

会場を覗いてみると、子どもたちは生き生きと目を輝かせて体験活動にいそしんでいます。異学年の子どもたちが力を合わせて活動するなど、授業中とは一味違った面も見られます。中には、出来上がった作品を教職員に見せに来たり、プレゼントしてくれたりもします。また、家庭に持ち帰って保護者に見せたり、後で親子一緒に作ったりすることもあるようです。

これらの活動を通して、子どもたちの中には意外な才能を発揮してスタッフを驚かせたり、新たに社会体育クラブに加入して活動の幅を広げたりした子どももいます。この姿こそ、ドリームパークのねらいだと思います。また、「子どもたちがドリームパークのことを話題にしていますよ。」と、保護者の方にも大好評のようです。

子どもたちは、ドリームパークから得た新しい知識や体験に大きな魅力を感じとっています。また、活動時はもとよりそれ以外の時や場所でもスタッフや保護者との関わりが増え、心を通い合わせるとともに信頼や感謝の気持ちも育ってきました。

この事業を支えるコーディネーターのプログラム作りや講師等の人材確保、多種多様な活動に使用する材料の準備など、関係者のご苦勞を考えると頭が下がります。神崎市の熱意によりこの取り組みの輪が次第に広がり、心身共に豊かな多くの神崎市民が育っていくことでしょう。

（初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン）第121号に掲載）